



ほなみ

山形市立金井小学校
学校だより 第2号
R2. 5. 18 発行
校長：佐藤 昌彦
児童数 812名
(5月1日現在)

学校再開の期待と心構え

いよいよ正式な授業日が始まりました。子どもたちはもちろん、保護者の皆様も職員も待ちに待った開校です。閉校になって2ヶ月半、やっとみんなの声と笑顔が戻ってきました。みんなと話したいこと、一緒に考えたいこと、挑戦したいことがたくさんあります。まだ自由にはできないこともあります。楽しみながら進んでいきましょう。

一方で、油断をすると感染の第二波、第三波もあるようです。感染予防に全力を尽くし、再度閉校になることのないよう体制を整えなければなりません。そのため例年にはない様々なお願いをすることもあるかと思いますが、緊急事態によるものご理解いただきご協力をお願いいたします。

学校を再開するにあたっては、学習保障を優先し、感染のリスクを過小に評価することのないよう、最優先は、児童の生命と安全を守ることだということ、常に職員全員で確認してまいります。

また、感染予防に必要なことは、生活習慣の一部となるぐらいの徹底を図っていきます。「朝、歯を磨くのと同時に体温を計る」「家を出るとき、ズックを履くようにマスクもする」「教室の照明をつけるように換気もする」このように、教員も子どもも感染予防が、日常だと考える必要があるのだと思います。今すぐにリスクをゼロにすることは難しく、長期戦になる覚悟が必要です。リスクを最小限に止めるための生活を協力して創っていきましょう。



1年間の学習計画が大きく変わります

5月半ばまで一学期が始まらず、教育計画も大幅に変更せざるを得ない状況です。大きな行事としては、例年5月に実施されている運動会が実施できていません。秋に延期できるのか中止になるのか、現段階では判断が難しい状況にあります。この他にも、少年自然の家への宿泊学習や演劇教室など、主催側や施設の関係で実施できない行事もたくさん出てきています。

いよいよ登校日が始まったわけですが、今日から例年通りの学校生活になるという訳には、まだまだいかないようです。

そんな中ですが、お子さんの様子について情報共有を図る保護者との個人面談、命を守る3年生の自転車教室、米どころ山形の住人として一度は体験して欲しい田植え等、安全の確保を図りながら実施できる活動については、積極的に進めていきたいと考えています。今後も様々な変更について、安全上の問題やその意義をしっかりと見定めて、取捨選択していくことになりそうです。

逆境に学ぶ

コロナウィルスは、人の命や自由、人々の時間をたくさん奪ったにくい相手です。でも、恐れたり文句を言ったりするだけでは、何の前進もありません。そこで、この逆境から、どんなことが学べたのか整理してみたいとおもいます。賛成・反対あるかと思いますが、皆さんの意見と比べながら考えてみてください。

○ 日常の大切さを見つめ直す

- 学校の授業や行事、スポ少、ピアノのレッスン、買い物、友だちと遊ぶ、外食…これまで当たり前だったことができなくなりました。当たり前のない毎日を、みなさんはどう感じたでしょうか。「当たり前のこと」が、どんなに大切か気づいたという人も多いのではないのでしょうか。

○ 自分で決める 決めたことを守る

- 学校では、大抵のことは決まっています。8時30分には朝の会、1時間目は何の学習か、お昼ごはん(給食)で何を食べるか…。でも、この休校の間は、どうだったでしょうか？ 何時から何をするのか、家庭学習ではどの教科をするか、何時までするか…自分で決めることがたくさんあったのではないのでしょうか。どう過ごすのがいいのか自分で決めて、自分で決めたことはしっかり守る。こんな経験は、これからいろんなことに挑戦していく皆さんにとって、とても貴重なものになるはずです。これからも、自分で決める期間が、もう少し続きます。根拠をしっかりさせて、自分で決めて、決めたことを守って実行してみましよう。



○ 自分さえ良ければいいの？

- 世界中の国が、コロナウィルスの予防に必死に取り組みました。それぞれの作戦は、うまくいったり、失敗したりでしたが、みんな必死に解決しようと頑張りました。学校を休み、遊びに行かず、できるだけ家の中で過ごした皆さんも、コロナウィルスと戦った世界の1人です。うつる病気と戦うには、みんなが協力して、みんなが我慢することが必要です。そうしないと、いつまでも解決に近づきません。日本のコロナウィルス感染者は、確実に減ってきています。これは、みんなの頑張りの成果です。でも、世の中には、「自分は病気になっても構わないから我慢なんかしない」とか、「自分にはうつるはずないから約束なんて守らない」という人もいました。さて、皆さんは、そういう人を見て、どう思ったのでしょうか？ 何を感じたのでしょうか？ しっかりと自分の考えをまとめてみましょう。

2ヶ月半という長期間の休校でしたから、ここでは取り上げられないような様々な気づきがあったことと思います。ウィルス予防のための不自由な生活の中では、残念なこと、悔しいことがたくさんありました。でも、「いやだった」で終わらせるのではなく、「この経験からもちやんと学んだよ！」と言える、転んでもただでは起きないたくましさ、前向きな気持ちをもっている金井の子になっていきましょう。